

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472100080		
法人名	社会福祉法人 大泉会		
事業所名	グループホームふるさと	ユニット名	ふる里
所在地	宮城県刈田郡蔵王町宮字下別当72番地		
自己評価作成日	平成24年 9月 4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>広大な敷地に特別養護老人ホーム「楽園が丘」が併設されており、周りには季節を感じる事が出来る、花や木々がたくさん植えられています。行事の時等には楽園が丘の方達と一緒にいき親睦を深めています。協力病院である大泉記念病院の医師が毎週に回診に来てくれるため、利用者様をはじめスタッフや家族も安心感があります。渡り廊下を通り各棟に行ききり両棟のスタッフにて見守り、声掛けを行っている。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「自然なところ」がホームの良いところと職員が言うように、同法人の特別養護老人ホームの敷地内に建つ「グループホームふるさと」は、アケビなど季節が満喫できる大自然に囲まれている。もう一つの「自然なところ」は、入居者も職員もありのままの自分を大切に支えあっているところである。相手を傷付けない言葉掛けや無理強いない考え方を大切にして、互いを受け入れている。前に掲げた目標達成計画の「行動目標の作成」は全職員による検討が成された。「散歩や買物の外出支援」については、震災後に外出環境が整わなかったことと介護度の重度化が外出不足の習慣化を招いたと見られるが、努めて周辺散歩を実施している。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成25年9月25日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームふるさと)「ユニット名 ふる里 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ一人ひとりが理念にそい、重度化された方についても、出来る限りGHで生活が送れるように工夫や努力を行い支援を行っている。	目標達成に掲げたのは、理念を具体的に行動化できるものにするのであった。皆で話し合っ「たのしく」⇒「笑顔」、「いっしょに」⇒「寄り添う」等の副題を併記した。振り返りには、本評価票を用いて自己確認を行なった。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方が季節の野菜等を届けてくれた時には一緒にお茶を飲み、会話を楽しんだりしている。又、夏祭りや敬老会等の行事の時にも地域の人達にも参加して頂いている。	法人が開催する「敬老会」には地域の高齢者も招待され、知人と言葉を交わす。神楽で入居者を楽しませてくれた小学生との交流も、入居者の顔がほころぶ時である。町の文化祭には入居者の作品を出展する。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町、介護保険事業所連絡会と一緒に地域の研修会に協力している。又、相談に来た方には他の介護保険事業者を紹介したりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業者より活動内容等の報告を行うとともに、委員の方々より出た話や意見等をサービスの向上に活かす様にしている。	法人関係者と家族代表4名、地域代表4名、地域包括支援センター職員1名の会議である。「季節を感じる行事を大切に」の意見があった。年間計画の節分、雛祭り、七夕等は例年の継続行事になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	保健福祉課の職員の方や社協の職員の方々等電話等にて、入所への相談や情報の共有、入所後の状態や退所後の相談等を行っている。	本調査には、町職員2名が同席した。町は「事例検討に基づいて」などの研修会を開催している。ホームについて町は、「困った方の拠り所」「少人数で家庭的」と評し、地域高齢者福祉の拠点と位置づけている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関のカギを開けており利用者様や地域の方々が入り出りできるようにしています。又、法人全体の研修会にて身体拘束について知識を高め、拘束を行わないケアを実践するように努力しています。地震の影響より外門は閉めている。	研修では無視や拒否、受け手を傷付ける言葉が拘束になる等を学んだ。行動を制限せず、入居者の言い分を受け入れ、混乱させない話し方などに留意している。不穏と思われる行動に対しては、家族の話や本人の思いを分析し、要因の除去に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士、お互い気をつけ声掛け合う様にしている。玄関にパンフレットを設置しており、家族や面会人も見て頂けるようにしている。言葉の使い方気をつけるように伝えられている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体での研修会や職員室に掲示しておき、いつでも見れる状態として理解してもらえように行っている。しかし、この制度を利用、活動しての支援のケースは今のところはない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明には管理者とホーム長とで説明を行い、理解、納得を得て了承して頂いている。分からない事や疑問点があれば、その都度対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様や家族の方々には、いつでも意見や相談が言えるような環境に努めている。意見や相談があった時はスタッフ間で話合ったり、運営委員会で話を出しているいろいろな助言を頂いたりしている。	家族の来訪時には、入居者の日頃の様子を報告している。来訪のない家族には写真を送っている。家族からの相談は、言い遺すことの記録についてが多く、選択肢として公証役場などの助言を行なった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案を聞き実践できる事や良い方向へ向かう事については反映出来るように努力するようにしている。	ユニット会議で提案される職員の意見は、皮膚の赤みへの対処や、落ち着きがなくなった入居者をゴミ出しがてら職員と一緒に外に出てはどうかなど、ケアのあり方についてである。それらは反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいや向上心を持って働けるように環境や整備等を整えてくれるように努めてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での研修会や外部研修を受講してもらい、質の向上につながるよう努力しています。又、個人にて介護福祉士の資格修得への学習を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会等を通して研修会等に参加して、互いの質の向上につなげたり、ストレスの解消を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様からの訴えや日常の会話の中から本心を聞いたり、一日の生活の様子から困っている事等を見つけ対応を行い、安心して生活が送れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時やその後の面会時等に近況報告しながら、要望や困っている事等に耳を傾け関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いを傾聴して、必要としている支援を見極めながら話合いや行動から決めていくように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に掃除や休憩をしたり、お茶を飲んだり、御飯を食べながら、良い関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況報告等を密に行ったり、何かの時には連絡を行い、家族等に協力をお願いし利用者様を支えている。遠方の方でなかなか来所出来ない方には、写真等を送るなどしている。又、家族の相談にのったりもしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅の近所の方や知人等が面会に来た時にはお茶等を提供して、ゆっくりと過ごして頂けるように行っている。	入居前から趣味で歌を唄っていた入居者の、好きなCDをホームで掛けて聴いている。農家だった入居者は野菜の下拵えが得意で、役割として腕をふるっている。訪問理容室は、家族も一緒に利用している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立しないように係わりを持ち会話等がスムーズにいくように、間にあったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて相談やフォローを行うように努めている。電話や手紙を頂いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの話や今までの生活等から本人の希望や意向を把握して、見守りや支援、介助等を行いその方に合った自立支援に努めている。GHIにて対応困難な希望等の時は家族へ連絡行い実現できる様に努めている。	寄り添って聞くことを大切にしている。意思の表出が困難な入居者については、表情やケース記録を参考に「どんな時にそうなるか」を読み取り、対応について職員が意見を出し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様本人や家族の方より、これまでの生活や経歴、出来事について教えていただいたりしているが、その方により入所前の生活歴等の情報が少ない方もいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェック、SPO2計測を行い、1人1人の変化や現状を把握出来るように努めている。状態の変化等が見られた時はカンファレンスを行いその時の状態に合わせた対応に変えたり、ドクターへ相談して指示をいただいたりしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様それぞれについて意見やアイデアがあればリーダーに報告、カンファレンスを行い本人に合ったケアが出来るように介護計画を作成するように努めている。	ユニット会議の課題について、管理者、各リーダー、ホーム長で検討し、必要なことを計画に盛り込んでいる。家族からの「菓子などを摂取調整して」や職員の「体位変換を」などの要望を計画書に反映させた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、時間を追ってケアの実践、気づきや状態の変化等をケース記録に記入して、スタッフ間で情報を共有しながら、それらを計画に生かすように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の協力も頂き、それぞれの状況に合わせて、必要に応じて通院付き添いや買い物等の対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節に応じた野菜や果物等を届けてくれる方々や、法人全体での地区の方々との交流会を行い、楽しく生活が送れるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様や家族が希望している病院へ受診できるように、病院や家族と情報交換等を行い支援を行っている。法人の車を借り送迎を行うこともある。往診も行って頂いている。	協力病院がかかりつけ医である。毎週往診があり、変化時は個別の「健康チェック表」を提示している。医師の指示は日誌に記録し、家族に電話で連絡する。歯科医師は腹話術慰問を兼ねて来訪している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院との連携がスムーズに行われるように努めている。又、通院時には通院前に病院に電話にて情報、連絡を入れてから通院を行っている。併設の楽園が丘の看護職の方にも手伝ってもらう事もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	通院や入院となった時、退院等に向けて協力病院の先生方をはじめ相談員等との情報交換や連絡を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化及び看取り介護についての指針を取り決め、ターミナルケアについてGHふるさとにて出来ることを説明して、今後重度化した場合等について話し合いを行っている。	24時間対応可能な協力医との連携が出来ている。終末期の食事摂取については法人栄養士の助言をもらうことができる。家族は、ホームで看取ってほしいとの要望が多く、これまでに経験もある。家族の相談を受けて、遺言作成について助言をしたこともある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応や事故発生時対しての研修を行っている。又、連絡網やマニュアルを作成して、いつでも見られる状態にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練等の実施、併設の特養スタッフや地域の消防協力隊が火災や災害が起きた時には協力していただけるような体制は築いている。	入居者の生命を守るとの意識で訓練に臨んでいる。消防協力員は近隣住民10名である。年2回の訓練のうち1回は夜間を想定している。署員講評の「実際は訓練ほどに出来ない」ことを肝に銘じ取り組むとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に合った呼び方を行うようにしており、中には家族の希望により「ちゃん」をつけて呼んでいる方もいる。言葉や態度に気をつけて接するように努めている。	一対一で話を聞く機会を作って入居者の話を聞いている。入居者にとって耳障りになっていないか、馴れ合いになっていないか、要望はないかなどその人の気持ちを第一に考えて、入居者のやる気を引き出している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる方には、してもらい、難しい方には「こうしてはどうか」等、提案させてもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々、利用者様のペースを優先に考えトイレ誘導や排泄ケア等、本人の希望に沿った生活を送っていただくように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や気温に合った服装をしてもらうように声掛け等を行っている。又、一緒に洋服を選んだりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方に合った形態(ミキサー状、水分はトロミ状)や量、器等にして提供している。食事の下準備や食事後の下膳、テーブル拭き等を行っていただいている。	入居者が喜んで食べるもの一つに「味噌おにぎり」がある。昔を懐かしんでいるようだ。正月の御節や雛祭りのちらし寿司など、行事を通して季節を味わっている。法人栄養士作成の献立を参考に調理している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合った食事の量、箸やスプーン、フォーク、器等をその方の状態にあわせ提供している。キザミやミキサー等、一人ひとり形態を変えて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後にその方に合わせた支援を行っている。声掛け、見守りだけの方。入れ歯を外してもらい介助にて洗浄を行っている方。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレへの声掛けや誘導、介助にて排泄を行う方等、その方に合わせた排泄の排泄支援を行うように努めている。	トイレでの排泄を促すことが、自立へとつながっている。夜間はオムツ使用でも日中はハパンで過ごせるよう支援している。モジモジする様子を感じてその都度誘ったり、パターンにそって誘導するなどしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日牛乳又はヨーグルトを提供している。水分補給も行っている。時には「の」字マッサージも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前にはバイタルチェックを行い、本人からの体調変化等について聞き入浴の可否としています。2名で介助を行い入浴している方もおり、その方に合った支援が出来るように努めている。	一人当たり週に2回程度の入浴である。日曜日と水曜日は休みにし、時間をとって活動にあてている。気のあった入居者同士が一緒に入ることもあり、入浴を楽しんでいる。転倒予防に声掛けや手引きなどしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動していただき、夜間は安眠していただけるように努めている。その方の状態により長時間の離床が困難な方には日中でも臥床していただいている方もいる。室内の温度等にも気をつけるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全スタッフが分かるように処方ファイルを作成して、いつでも見られる状態にしている。又、服薬確認を行い、薬の数や形状にも気をつけるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯干し、洗濯たたみ、調理の下ごしらえ、花、ゴミ捨て等、その方が好きな事、出来る事を行ってもらい張り合い、喜びのある生活を送っていただけるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日にはなるべく戸外に出れるように支援している。以前から比べると戸外に出たがらなくなってきている。又、家族と好きな時に外出が出来るように支援している。	震災時に地盤の隆起などで外出できなくなった。その後修復したが、入居者の生活は重度化も加わって外出しない生活が習慣化してしまった。入居者にとって外出は、気持ち良く、元気が出る手段と考えて、施設周辺を散歩するなど積極的に外気に触れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の預かり管理は利用者様、家族の要請を受け行うようにしています。買い物等で使う際には出金して、台帳に記入を行っています。個人で管理して支払いしている方もおります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話が設置されており、好きな時に電話を掛けたり、番号の確認を行ったりしている。又、家族等から電話がきた時にはつなぎ、話をしてもらっている。手紙については郵便配達の時に出しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	談話コーナーにはテーブル、イスを設置しており、誰でもくつろげるようにしています。一部食堂にソファを置き、いつでも休むことげ出来るようにしている。食席を気の合う人同士を近くにして、楽しく食事がとれる様にしている。	テラスで芋煮会をしたり、食堂や小上がりでは新聞たたみ、折り紙など活動の場となっている。壁画の製作時は、自分が参加していると感じてもらえるよう、それぞれの入居者に出来ることをしてもらおうなど、入居者にとっての共有空間は、思いやりの空間でもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2ヶ所の談話コーナーを設け、ソファ、テーブル、イスを設置しています。食堂前のテラスにもベンチやテーブルを置き、いつでもくつろげるようにしています。面会があった時にも使用してもらったいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の方にも協力していただき使い慣れた物や好みの物を持って来てもらうようにしている。GHIにて用意した物等を飾らせてもらったりしている。	居室の家具配置や飾り付けは、家族の手による事が多い。全室フローリングだが、希望に応じて畳を敷き、落ち着いた和室に変えて使用している入居者も居る。夜間は1時間毎の巡回で見守りしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自力で出来る事は、本人から依頼等があるまで見守り、なるべく自力で行ってもらうように声掛けを行っている。又、一緒に行う事で安心、安全に生活が送れるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0472100080		
法人名	社会福祉法人 大泉会		
事業所名	グループホームふるさと	ユニット名	わが家
所在地	宮城県刈田郡蔵王町宮字下別当72番地		
自己評価作成日	平成24年 9月 7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>広大な敷地に特別養護老人ホーム「楽園が丘」が併設されており、周りには季節を感じる事が出来る、花や木々がたくさん植えられています。行事の時等には楽園が丘の方達と一緒にいき親睦を深めています。協力病院である大泉記念病院の医師が毎週、回診に来てくれるため、利用者様をはじめスタッフや家族も安心感があります。渡り廊下を通り各棟に行ききり両棟のスタッフにて見守り、声掛けを行っている。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「自然なところ」がホームの良いところと職員が言うように、同法人の特別養護老人ホームの敷地内に建つ「グループホームふるさと」は、アケビなど季節が満喫できる大自然に囲まれている。もう一つの「自然なところ」は、入居者も職員もありのままの自分を大切に支えあっているところである。相手を傷付けない言葉掛けや無理強いない考え方を大切にして、互いを受け入れている。前に掲げた目標達成計画の「行動目標の作成」は全職員による検討が成された。「散歩や買物の外出支援」については、震災後に外出環境が整わなかったことと介護度の重度化が外出不足の習慣化を招いたと見られるが、努めて周辺散歩を実施している。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	平成25年9月25日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームふるさと)「ユニット名 わが家 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ一人ひとりが理念にそい、重度化された方についても、出来る限りGHで生活が送れるように工夫や努力を行い支援を行っている。	目標達成に掲げたのは、理念を具体的に行動化できるものにするのであった。皆で話し合っ「たのしく」⇒「笑顔」、「いっしょに」⇒「寄り添う」等の副題を併記した。振り返りには、本評価票を用いて自己確認を行なった。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方が季節の野菜等を届けてくれた時には一緒にお茶を飲み、会話を楽しんだりしている。又、夏祭りや敬老会等の行事の時にも地域の人達にも参加して頂いている。	法人が開催する「敬老会」には地域の高齢者も招待され、知人と言葉を交わす。神楽で入居者を楽しませてくれた小学生との交流も、入居者の顔がほころぶ時である。町の文化祭には入居者の作品を出展する。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町、介護保険事業所連絡会と一緒に地域の研修会に協力している。又、相談に来た方には他の介護保険事業者を紹介したりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業者より活動内容等の報告を行うとともに、委員の方々より出た話や意見等をサービスの向上に活かす様にしている。	法人関係者と家族代表4名、地域代表4名、地域包括支援センター職員1名の会議である。「季節を感じる行事を大切に」の意見があった。年間計画の節分、雛祭り、七夕等は例年の継続行事になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	保健福祉課の職員の方や社協の職員の方々等電話等にて、入所への相談や情報の共有、入所後の状態や退所後の相談等を行っている。	本調査には、町職員2名が同席した。町は「事例検討に基づいて」などの研修会を開催している。ホームについて町は、「困った方の拠り所」「少人数で家庭的」と評し、地域高齢者福祉の拠点と位置づけている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関のカギを開けており利用者様や地域の方々が入り出できるようにしています。又、法人全体の研修会にて身体拘束について知識を高め、拘束を行わないケアを実践するように努力しています。自室サッシ戸より外に出てしまう方の対応については難しい。	研修では無視や拒否、受け手を傷付ける言葉が拘束になる等を学んだ。行動を制限せず、入居者の言い分を受け入れ、混乱させない話し方などに留意している。不穏と思われる行動に対しては、家族の話や本人の思いを分析し、要因の除去に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同士、お互い気をつけ声掛け合う様にしている。玄関にパンフレットを設置しており、家族や面会人も見て頂けるようにしている。言葉の使い方気をつけるように伝えられている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体での研修会や職員室に掲示しておき、いつでも見れる状態として理解してもらえように行っている。しかし、この制度を利用、活動しての支援のケースは今のところはない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明には管理者とホーム長とで説明を行い、理解、納得を得て了承して頂いている。分からない事や疑問点があれば、その都度対応を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様や家族の方々には、いつでも意見や相談が言えるような環境に努めている。意見や相談があった時はスタッフ間で話合ったり、運営委員会で話を出しているいろいろな助言を頂いたりしている。	家族の来訪時には、入居者の日頃の様子を報告している。来訪のない家族には写真を送っている。家族からの相談は、言い遺すことの記録についてが多く、選択肢として公証役場などの助言を行なった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見や提案を聞き実践できる事や良い方向へ向かう事については反映出来るように努力するようにしている。	ユニット会議で提案される職員の意見は、皮膚の赤みへの対処や、落ち着きがなくなった入居者をゴミ出しがてら職員と一緒に外に出てはどうかなど、ケアのあり方についてである。それらは反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいや向上心を持って働けるように環境や整備等を整えてくれるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体での研修会や外部研修を受講してもらい、質の向上につながるよう努力しています。又、個人にて介護福祉士の資格修得への学習を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会等を通して研修会等に参加して、互いの質の向上につなげたり、ストレスの解消を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様からの訴えや日常の会話の中から本心を聞いたり、一日の生活の様子から困っている事等を見つけ対応を行い、安心して生活が送れるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時やその後の面会時等に近況報告しながら、要望や困っている事等に耳を傾け関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いを傾聴して、必要としている支援を見極めながら話合いや行動から決めていくように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に掃除や休憩をしたり、お茶を飲んだり、御飯を食べながら、良い関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況報告等を密に行ったり、何かの時には連絡を行い、家族等に協力をお願いし利用者様を支えている。遠方の方でなかなか来所出来ない方には、写真等を送るなどしている。又、家族の相談にのったりもしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅の近所の方や知人等が面会に来た時にはお茶等を提供して、ゆっくりと過ごして頂けるように行っている。	入居前から趣味で歌を唄っていた入居者の、好きなCDをホームで掛けて聴いている。農家だった入居者は野菜の下拵えが得意で、役割として腕をふるっている。訪問理容室は、家族も一緒に利用している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立しないように係わりを持ち会話等がスムーズにいくように、間にあったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて相談やフォローを行うように努めている。電話や手紙を頂いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの話や今までの生活等から本人の希望や意向を把握して、見守りや支援、介助等を行いその方に合った自立支援に努めている。GHIにて対応困難な希望等の時は家族へ連絡行い実現できる様に努めている。	寄り添って聞くことを大切にしている。意思の表出が困難な入居者については、表情やケース記録を参考に「どんな時にそうなるか」を読み取り、対応について職員が意見を出し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様本人や家族の方より、これまでの生活や経歴、出来事について教えていただいたりしているが、その方により入所前の生活歴等の情報が少ない方もいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタルチェック、SPO2計測を行い、1人1人の変化や現状を把握出来るように努めている。状態の変化等が見られた時はカンファレンスを行いその時の状態に合わせた対応に変えたり、ドクターへ相談して指示をいただいたりしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様それぞれについて意見やアイデアがあればリーダーに報告、カンファレンスを行い本人に合ったケアが出来るように介護計画を作成するように努めている。	ユニット会議の課題について、管理者、各リーダー、ホーム長で検討し、必要なことを計画に盛り込んでいる。家族からの「菓子などを摂取調整して」や職員の「体位変換を」などの要望を計画書に反映させた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、時間を追ってケアの実践、気づきや状態の変化等をケース記録に記入して、スタッフ間で情報を共有しながら、それらを計画に生かすように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の協力も頂き、それぞれの状況に合わせて、必要に応じて通院付き添いや買い物等の対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節に応じた野菜や果物等を届けてくれる方々や、法人全体での地区の方々との交流会を行い、楽しく生活が送れるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様や家族が希望している病院へ受診できるように、病院や家族と情報交換等を行い支援を行っている。法人の車を借り送迎を行うこともある。往診も行って頂いている。	協力病院がかかりつけ医である。毎週往診があり、変化時は個別の「健康チェック表」を提示している。医師の指示は日誌に記録し、家族に電話で連絡する。歯科医師は腹話術慰問を兼ねて来訪している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院との連携がスムーズに行われるように努めている。又、通院時には通院前に病院に電話にて情報、連絡を入れてから通院を行っている。併設の楽園が丘の看護職の方にも手伝ってもらう事もある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	通院や入院となった時、退院等に向けて協力病院の先生方をはじめ相談員等との情報交換や連絡を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化及び看取り介護についての指針を取り決め、ターミナルケアについてGHふるさとにて出来ることを説明して、今後重度化した場合等について話し合いを行っている。	24時間対応可能な協力医との連携が出来ている。終末期の食事摂取については法人栄養士の助言をもらうことができる。家族は、ホームで看取ってほしいとの要望が多く、これまでに経験もある。家族の相談を受けて、遺言作成について助言をしたこともある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応や事故発生時対しての研修を行っている。又、連絡網やマニュアルを作成して、いつでも見られる状態にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練等の実施、併設の特養スタッフや地域の消防協力隊が火災や災害が起きた時には協力していただけるような体制は築いている。	入居者の生命を守るとの意識で訓練に臨んでいる。消防協力員は近隣住民10名である。年2回の訓練のうち1回は夜間を想定している。署員講評の「実際は訓練ほどに出来ない」ことを肝に銘じ取り組むとしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に合った呼び方を行うようにしており、その時の状況に合わせた言葉を使用している。失礼な言葉使いや態度に気を付けて接するように努めている。	一対一で話を聞く機会を作って入居者の話を聞いている。入居者にとって耳障りになっていないか、馴れ合いになっていないか、要望はないかなどその人の気持ちを第一に考えて、入居者のやる気を引き出している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる方には、してもらい、難しい方には「こうしてはどうか」等、提案させてもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースを優先に考えトイレ誘導や排泄ケア等、本人の希望に沿った生活を送っていただくように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や気温に合った服装をしてもらうように声掛け等を行っている。又、一緒に洋服を選んだりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方に合った形態(ミキサー状、流動食状)や量、器等にして提供している。食事の下準備や食事後の下膳、テーブル拭き等を行っていただいている。	入居者が喜んで食べるもの一つに「味噌おにぎり」がある。昔を懐かしんでいるようだ。正月の御節や雛祭りのちらし寿司など、行事を通して季節を味わっている。法人栄養士作成の献立を参考に調理している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合った食事の量、箸やスプーン、フォーク、器等をその方の状態にあわせ提供している。キザミやミキサー等、一人ひとり形態を変えて提供している。食事量が減っている方は食事摂取表を記入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後にその方に合わせた支援を行っている。声掛け、見守りだけの方。入れ歯を外してもらい介助にて洗浄を行っている方。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレへの声掛けや誘導、介助にて排泄を行う方等、その方に合わせた排泄の排泄支援を行うように努めている。	トイレでの排泄を促すことが、自立へとつながっている。夜間はオムツ使用でも日中はリハパンで過ごせるよう支援している。モジモジする様子を感じてその都度誘ったり、パターンにそって誘導するなどしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を小まめに行っている。その他、必要に応じて下剤を使用している方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り入りたい時に入れる様にしている。2名で介助を行い入浴している方もおり、その方に合った支援が出来るように努めている。	一人当たり週に2回程度の入浴である。日曜日と水曜日は休みにし、時間をとって活動にあてている。気のあった入居者同士が一緒に入ることもあり、入浴を楽しんでいる。転倒予防に声掛けや手引きなどしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に応じ対応している。又、その日の状態で休みたい時に休んでもらうように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全スタッフが分かるように処方ファイルを作成して、いつでも見られる状態にしている。又、服薬確認を行い、薬の数や形状にも気をつけるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯干し、洗濯たたみ、調理の下ごしらえ、花、ゴミ捨て等、その方が好きな事、出来る事を行ってもらい張り合い、喜びのある生活を送っていただけるように支援している。晩酌している方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日スタッフと一緒にゴミ捨てに行ったり、散歩へ行ったりしている。家族が迎えに来て出掛けている。	震災時に地盤の隆起などで外出できなくなった。その後修復したが、入居者の生活は重度化も加わって外出しない生活が習慣化してしまった。入居者にとって外出は、気持ち良く、元気が出る手段と考えて、施設周辺を散歩するなど積極的に外気に触れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の預かり管理は利用者様、家族の要請を受け行うようにしています。買い物等で使う際には出金して、台帳に記入を行っています。個人で管理して支払いしている方もおります。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話が設置されており、好きな時掛ける事ができる。又、家族等から電話がきた時にはつなぎ、話をしてもらっている。手紙については郵便配達の時に出しています。定期的に孫さんより絵ハガキが届く方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂には季節に合った壁画やみなさんで作成した物を飾り雰囲気作りをしている。	テラスで芋煮会をしたり、食堂や小上がりでは新聞たたみ、折り紙など活動の場となっている。壁画の製作時は、自分が参加していると感じてもらえるよう、それぞれの入居者に出来ることをしてもらうなど、入居者にとっての共有空間は、思いやりの空間でもある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室、食堂、談話コーナー等、好きな所でくつろげる環境を整えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人差はあるが個々に自室は本人の居心地の良い、落ち着く部屋作りに努めている。	居室の家具配置や飾り付けは、家族の手による事が多い。全室フローリングだが、希望に応じて畳を敷き、落ち着いた和室に変えて使用している入居者も居る。夜間は1時間毎の巡回で見守りしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室前には写真や名前を貼ったり、自分の家、部屋だと思っただけのような環境作りに努めている。		